



令和5年度新教育課程説明会

川西市立多田小学校

令和5年2月16日（木） 体育館

なぜ？
個人？ システム？

新教育課程への経緯

教職員

休暇等取得時の対応
（未配置・代替授業等）

良い担任・
そうではない担任
（重圧）

担任として頼られる
（自律を妨げる？）

社会情勢の変化
（男性育休・時短勤務等）

午前
4時
間
授
業
担
任
制

疑問

子ども

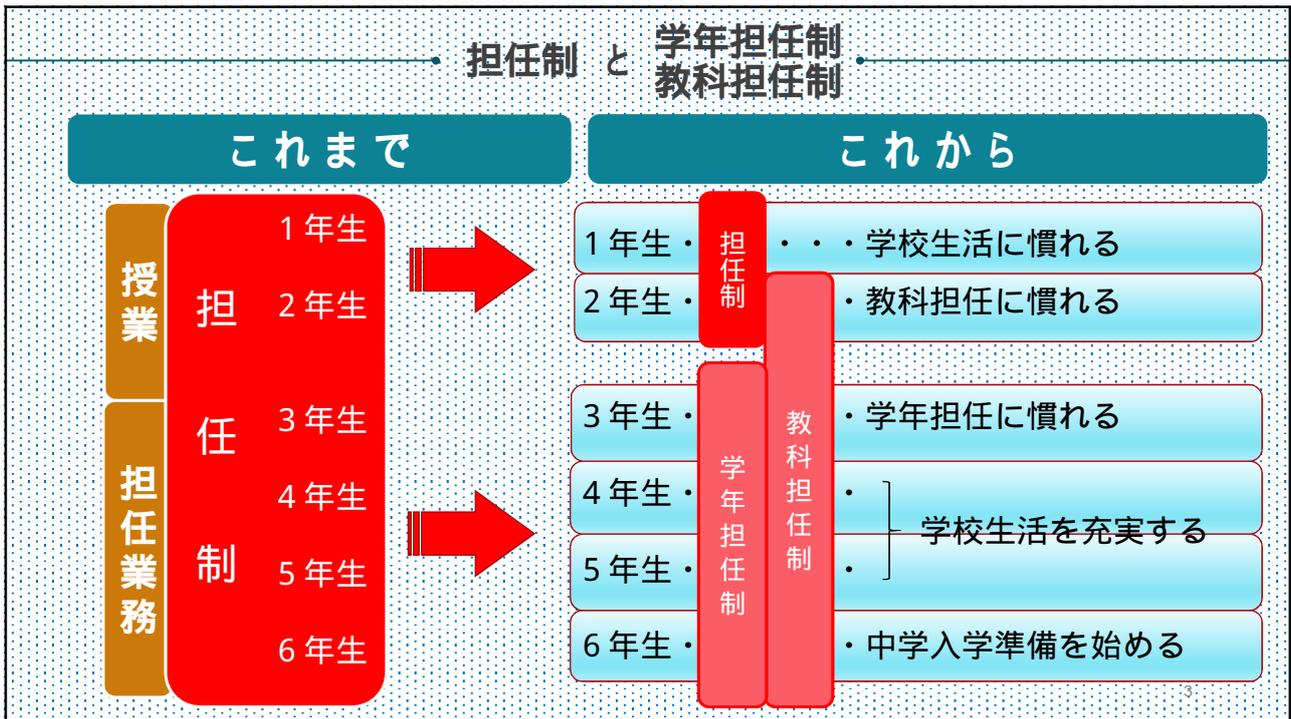
担任不在の不安
（他の学級は通常通り）

安定している学級と
していない学級
（担任が良い・悪い）

担任を頼る
（自律？他律？）

午後の授業のつらさ
（子どもも担任も）

令和4年度までの課題



教科担任制 学年担任制

1 教科担任制(2年生以上)

- 教科により担当する教員が代わります。これまでの専科が増えるイメージです。一人一教科ではなく、同じ教員が複数教科を担当する場合もあります。
- 学年教員を中心に分担しますが、他学年の教員が加わる場合もあります。
- いろいろな教員と出会うことができます。
- 教員の個性も多様です。多くの個性と出会い、子ども自身のロールモデルを見つけてほしいという願いもあります。

	担任と教科(学年別)		
	担任	教科	
1年	学級担任	担任の授業	【学級担任】一担任が学級を担当し、授業等も行います。
2年	学級担任	教科担任の授業	【学年担任】学年全学級を複数の教員で担任します。(下記2を参照)
3年	学年担任	教科担任の授業	【教科担任】教科により担当する教員が代わります。
4年	学年担任	教科担任の授業	
5年	学年担任	教科担任の授業	
6年	学年担任	教科担任の授業	

【たんぼぼ学級】学級ごとに一人の教員が担当します。(今年度と同じ制度) 4

教科担任制 学年担任制

2 学年担任制(3年生以上)

- 複数の教員が学年全体を担当します。
- 朝の会・給食・掃除・帰りの会・授業を分担します。
- 年度当初に学級担当者を決めますが、年度途中で学級担当者が代わります。
- 教科指導は教科担任制(上記1を参照)で行います。
- 子どもたちの発達段階に応じた自律を目指します。
- 「先生、していいですか?」という言葉をよく聞きます。教員の指示を聞くだけでなく、自身で考え、相談しながら生活する児童の育成を目指します。
- 子どもの良さを課題を多くの教員で見出し、褒め、支援します。
- 複数の教員が多面的・複眼的に見取ります。複数の教員からの声掛けが増え、子どもたちが安心して過ごせます。児童理解や指導の教員間コミュニケーションが重要です。時間を確保した共通理解をもとに子どもたちと関わり、支援します。
- 指導の均等化を図ります。学年全ての学級、子どもたちに同じ指導ができます。

- 相談の選択肢を広げ、相談しやすい教員に相談できる体制にします。困った時に相談しやすい教員に相談でき、早期の問題解決を図れます。質問や連絡は、そのときの学級担当や学年教員にご連絡ください。連絡帳の場合は、その時の学級担当が対応します。
- 教員の資質能力の向上を図ります。教員同士の連携が重要です。教員一人の考えや判断ではなく、教員同士が時間を確保したコミュニケーションによってその資質能力を引き上げます。
- 教員の不在時(未配置、休暇取得等)の不安を払拭します。教員が休まなければならない場合でも、担任不在ではなく学年の教員全員で見守っていくため、担任不在の不安を軽減できます。

5

担任制 と 教科担任制 学年担任制

これまで

これから

授業

授業(担任)
授業(一部専科の教員)

教科担任制

授業(教科担任・複数教員)

担任業務

朝・給食・帰りの会(担任)
全てを担任が運営
学年合同運営は一部
課題時は協働(担任が前提)

担任制

学年担任制

朝・給食・帰りの会(交代で担当)
全てを複数の学年教員で運営
(学級担当は交代制)
学年合同運営が前提
課題時は協働(学年中心に対応)

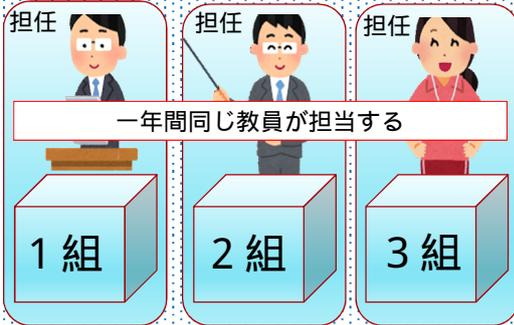
6

学年担任制

これまで（担任制）

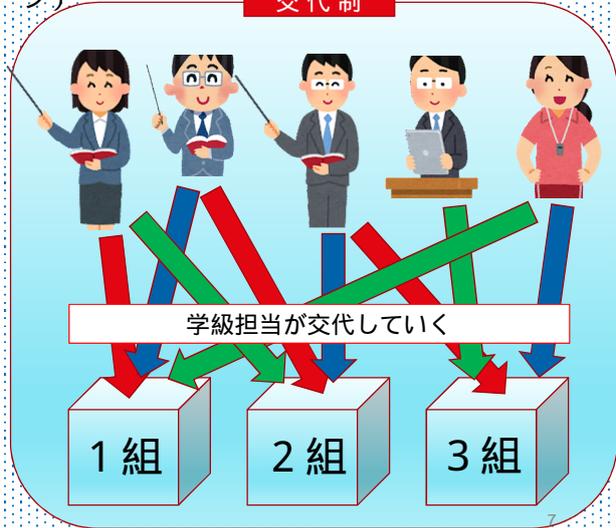
年間固定

（イメージ）



これから（学年担任制）

交代制

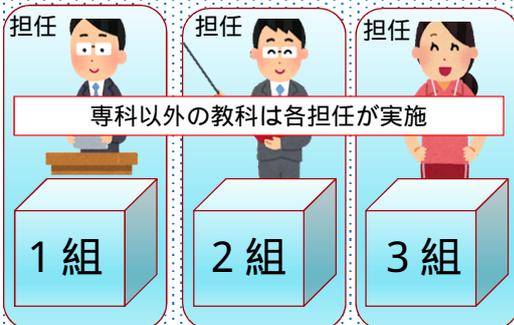


教科担任制

これまで（担任制）

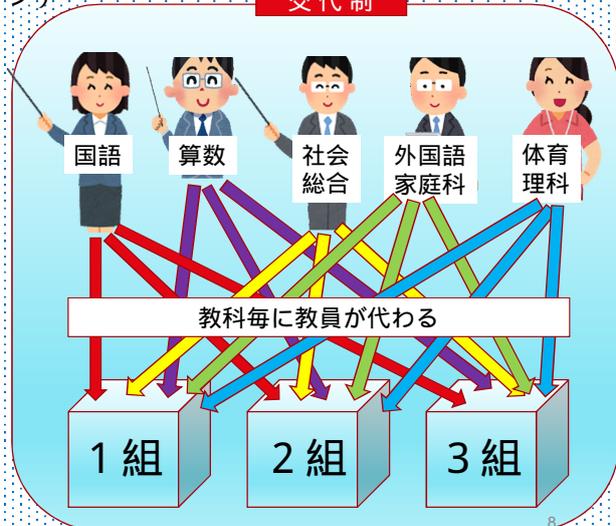
年間固定

（イメージ）



これから（教科担任制）

交代制



・ 担任制 と 学年担任制 ・

担任制

メリット

担任が長時間一緒にいる
一人一人を深く理解できる
信頼関係ができる
相談相手が明確（保護者・子ども）

デメリット

担任が休むと一日自習になる
関係が良くないとつらい一年
子ども理解の視点が担任に偏る
他の教員が学級に関わりにくい

学年担任制

たくさんの教員と関われる
複数の視点で子ども理解が広がる
教員が休んでも影響が少ない
相談相手を選べる（保護者・子ども）

教員間の共通理解に時間を要する
一人に関わる時間が減少する
特定の教員に負担がかかる可能性
相談する相手を決めるのに悩む

9

・ 担任不在時の対応 ・

これまで

子ども

朝・給食・帰りの会（担任外教員）
授業（自習）
または
授業（空き時間の教員で授業）

その学級だけ 全日

教員

朝・給食・帰りの会（担任外教員）
授業（全時間自習内容を準備）
授業（空き時間の教員で授業）

これから

朝・給食・帰りの会（学年担任）
授業（自習・その教科のみ）
授業（他の教科は通常の授業）

教科担当の時間だけ

朝・給食・帰りの会（学年担任）
授業（自習・その教科のみ準備）
授業（他の教科は通常の授業）

10

時間	現教育課程 (R4)				午前5時間授業					
	月火木金		水		時間割	月	火	水	木	金
8:00	6時間		5時間		登校時間					
8:25	登校時間		登校時間		1年	5時間	4時間	5時間		
8:30	朝の学習		朝の学習		2年	5時間				
8:45	1時間目		1時間目		3年	5時間	6時間	5時間	6時間	5時間
9:30	休み		休み		4年	6時間	6時間	5時間	6時間	5時間
9:40	2時間目		2時間目		5年	6時間	6時間	5時間	6時間	5時間
10:25	中休み		中休み		6年	6時間	6時間	5時間	6時間	5時間
10:45	3時間目		3時間目		下校時間 6時間： 月火木) 15:40 5時間：月火木金) 14:45 水) 14:25 4時間： 水) 13:40 給食あり：4時間) 13:15 給食なし：4時間) 12:25					
11:30	4時間目		4時間目							
11:40	給食		給食							
13:05	昼休み		掃除							
13:30	掃除		5時間目							
13:40	掃除		13:40下校							
13:50	5時間目		14:25下校							
14:25	休み		14:45下校							
14:35	6時間目		15:40下校							
14:45	6時間目		15:40下校							
15:30	15:40下校		15:40下校							
15:40	15:40下校		15:40下校							

時間	新教育課程 (R5~)				午前5時間授業					
	月		火~金		時間割	月	火	水	木	金
8:00	6時間		5時間		登校時間					
8:20	登校時間		登校時間		1年	5時間				
8:30	朝の会		朝の会		2年	5時間	6時間			
9:10	1時間目		1時間目		3年	6時間	5時間	6時間		
9:20	休み		休み		4年	6時間				
10:00	2時間目		2時間目		5年	6時間				
10:15	中休み		中休み		6年	6時間				
10:55	3時間目		3時間目		下校時間 6時間： 月) 15:05 火~金) 14:45 5時間： 月) 14:20 火~金) 14:00 短縮) 13:20 給食なし：4時間) 11:45 5時間) 12:30					
11:05	4時間目		4時間目							
11:45	給食		給食							
13:10	昼休み		昼休み							
13:30	掃除		多田小タイム(木:掃除)							
13:40	掃除		多田小タイム							
13:50	多田小タイム		14:00下校							
14:00	多田小タイム		6時間目							
14:10	多田小タイム		14:45下校							
14:20	多田小タイム		14:45下校							
14:25	6時間目		15:05下校							
14:45	6時間目		15:05下校							
14:55	6時間目		15:05下校							
15:05	6時間目		15:05下校							
15:40	15:40下校		15:40下校							

午前5時間授業-

- 下校後の余暇の時間が確保できます。
- 個人懇談等による授業カット数が1時間減ります。
- 20分の多田小タイムで基礎基本の学習を行います。
- 6時間目と多田小タイムで60分授業も行えます。
- 1時間当たりの授業時間は5分短くなりますが、年間標準時数を確保しています。
- 放課後に時間を確保し、学年教員で打ち合わせを行います。児童の情報共有を図り、翌日の指導に活かします。
- 教員の多様な勤務体制に対応します。

標準時数：文部科学省による規定（45分で年間計画の時数）

40分の時数（コマ数）＝【授業（40分）回数】＋【多田小タイム（20分）回数】/2

45分換算時数（コマ数）＝【40分の時数（コマ数）】×40分/45分

40分の時数は、45分授業時の標準時数よりも大幅に多くなります。

午後の多田小タイムと40分を一つにして使うこともできます。6年生では、卒業前に午後の時間を活用して50分授業の経験も計画していきます。

多田小タイムは、国語（漢字学習など）を行います。

午前5時間授業-

年間の授業時数

(令和3年度日程で計算)

1年			2年			3年			4年			5年			6年		
授業(40分)回数	月～金5時間		授業(40分)回数	月～水5時間 木金6時間		授業(40分)回数	水5時間 月火木金6時間		授業(40分)回数	月～金6時間		授業(40分)回数	月～金6時間		授業(40分)回数	月～金6時間	
多田小タイム(20分)回数	+多田小夕4/週		多田小タイム(20分)回数	+多田小夕4/週		多田小タイム(20分)回数	+多田小夕4/週		多田小タイム(20分)回数	+多田小夕4/週		多田小タイム(20分)回数	+多田小夕4/週		多田小タイム(20分)回数	+多田小夕4/週	
40分時数(コマ数)	余剰時数	標準時数	40分時数(コマ数)	余剰時数	標準時数	40分時数(コマ数)	余剰時数	標準時数	40分時数(コマ数)	余剰時数	標準時数	40分時数(コマ数)	余剰時数	標準時数	40分時数(コマ数)	余剰時数	標準時数
1,000			1,067			1,140			1,164			1,164			1,135		
76			76			76			76			76			75		
1,038	188		1,105	195		1,178	198		1,202	187		1,202	187		1,173	158	
45分換算時数(コマ数)	余剰時数	850	45分換算時数(コマ数)	余剰時数	910	45分換算時数(コマ数)	余剰時数	980	45分換算時数(コマ数)	余剰時数	1,015	45分換算時数(コマ数)	余剰時数	1,015	45分換算時数(コマ数)	余剰時数	1,015
923	73		982	72		1,047	67		1,068	53		1,068	53		1,042	27	

令和3年度計画989時間

令和3年度計画1035時間

令和3年度計画1101時間

令和3年度計画1118時間

令和3年度計画1116時間

令和3年度計画1094時間



川西市立多田小学校

令和5年2月16日（木） 体育館

15



新教育課程に向けて

1月13日「令和5年度新教育課程の導入について」でお知らせしました、来年度の多田小学校の改革についてご質問やご意見をいただきありがとうございました。市内でも初めての取り組みであり、これまでの当たり前をもう一度問い直しているところです。多くの小学校での教育システムは、学級担任と専科教員で構成されています。おそらく明治時代後半から続くシステムです。私たち教職員もその体制を当然のものとして小学校教育に取り組んできました。しかし、社会情勢も大きく変わり、学校もその渦の中で新しい教育へと進化させていくことが必要となっています。言い換えれば、今ここの話でなく、これからの社会を生き抜く子どもたちにとって、何が重要なかを考えていくことが重要なのだと考えています。

学校では、毎年様々な課題に直面しています。その都度教職員と子どもたちや保護者のみなさんと対話しながら進めています。しかし、なかなかうまくいかないこともありました。例えば、ある学級が落ち着かなかったり、担任の先生が休職に入っても代替の先生が見つからなかったりしました。（市内外の学校でも同様です。）それに加えて、コロナ関連で先生が突然長期休暇まなければならぬことも重なりました。その対象となった学級の子どもたちにとって、決して良い状況ではありません。何とかしなければなりません。担任がいる・いないだとか、A先生が担任でよかったあるいは悪かったということは、子どもたちみんなにとって本当に良いのだろうかという問いが教職員の中で議論となりました。

教職員の中でも、教科担任制や学年担任制、午前5時間授業について、様々な意見がありました。時間をかけ話し合いながら、子どもたちにとって何が良いことなのかを真ん中に据えて、令和5年度新教育課程を構築してきました。議論を重ねるということは、当然意見のぶつかり合いも生まれます。ぶつかり合いながらも、意見の違う相手を尊重し、自身の意見とすり合わせていくことをねばり強く続けた結果です。校長の指示で策定したのではなく、教職員の議論の結果であったことは、ぜひともお伝えしたいことなのです。

多田小学校の子どもたちにとって、これから必要な姿とは、このような議論ができるようになることだと考えています。そのことを伝えられるようになるには、子どもたちのそばにいる我々教職員が実践者でなければならないと改めて思います。子どもたちは大人の姿を待て吸収し、大人へと成長していきます。多田小学校の教職員は新教育課程の実践に向け取り組んでいます。その過程を子どもたち、保護者の皆さん、地域の方々と共に進んでいこうと思います。

2月16日（木）14時50分 参観後に説明会を開催いたします。全教職員出席で行いますので、ぜひご参加ください。保護者の皆さんのご意見をお聞かせください。質問もお待ちしております。胸襟を開いた大人の話し合いこそが、大人から子どもたちへのメッセージだと思っております。

16